

## 令和 2 年度多摩市立図書館事業評価

### 多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業

#### 基本目標 (1) だれもが使える図書館

#### 評価項目 【取り組み 3】 多文化サービスの充実

- 多摩市国際交流センターとの連携により、外国人に向けて図書館利用につながるような図書館情報を発信する。【継続】
- 外国語資料、外国語学習資料の充実を図り、利用促進に向けてPRする【継続】
- 外国語資料の目録作成マニュアルの見直しを行う【企画運営】【新規】

実施結果  
(具体的な取り組み状況)

#### 【取り組み 3】 多文化サービスの充実

- 多摩市国際交流センターが発行する広報誌に おすすめ本やサービスについて情報提供する【継続】
- 多摩市国際交流センターが発行する広報紙に図書館の紹介記事を 3 回掲載し、図書館が購入した外国語の本の紹介のほか多読本コーナー、電子図書館など図書館の新しいサービスについて外国人に向けて広報ができた。
- 多読に適した英語学習資料や多言語に翻訳された日本の絵本などを購入する【継続】
- 多読に適した英語学習資料を 24 冊購入した。
- 中国語に翻訳された日本の絵本、一般向けの洋書を 48 冊購入した。また新たに開始した電子図書館では、多読用の英語のテキスト、英語や韓国語の音声付の絵本、昔話や名作が英語で聞けるコンテンツなど幅広く外国語に触れられるコンテンツを 129 タイトル購入した。英語音声付の絵本コンテンツは同じ内容が日本語でも聞けるコンテンツも購入し、対訳で楽しめるように配慮した。購入したコンテンツは電子図書館上での特集やジャンルで紹介し、電子図書館利用者の目に留まるよう積極的にPRした。
- 学校、児童、生徒、保護者へ向け新規に所蔵した資料のPRをする【継続】【新規】
- 各館に分散していた多読資料を集め、本館こどもとしょじつに「多読コーナー」として新設し、レベル別にするなど選びやすくした。またやまばと通信などで設置をPRし利用促進を図った。
- 多読本、多摩市電子図書館のPRを、関係機関への説明や小・中学校連絡会、ほんともフェスタ展示で行い、図書館利用者以外にも広くPRした。

#### 外国語資料貸出実績 (一般・児童含む)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
所蔵数	4,324	4,394	4,470	4,248	4,132
貸出数	1,377	1,293	1,177	1,226	865

#### 令和 2 年度電子書籍 (多読用・オーディオブック (英語)) 貸出実績

所蔵タイトル数 129 タイトル

多読用コンテンツ 貸出回数 19 回

オーディオブック (英語で聞く文学・昔話、語学学習) 貸出回数 89 回

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語以外の言語の資料にも対応できるように目録作成マニュアルを見直す【新規】</li> <li>・令和元年から英語以外の言語として中国語や韓国語の絵本を購入し、目録については、国会図書館のマークを取り込み、読みなどを追加修正し作成した。英語以外の言語の図書目録作成について多摩市としてルールがないため、翻字の入力などの検討を進めたが、検討途中であるため引き続き検討を進める。</li> <li>・韓国語利用案内の文言を見直し、修正したデータを元に利用案内の修正版を各館に配布した。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">図書館の自己評価</p>	<p>【図書館の自己評価対象】：【取り組み3】多文化サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を利用していない市民、外国人に向けて多摩市国際交流センターの広報紙や図書館ホームページ等で多読資料や外国語の絵本について掲載しPRしたが、コロナ禍での臨時休館等により利用が少なかったことが影響したため外国語の資料の貸出数は過去4年と比べ減少した。</li> <li>・開架や書庫にある古く状態も悪いなど利用がされていない洋書を廃棄するとともに、マーク付きの洋書を積極的に購入し資料の入れ替えを行った。</li> <li>・多読用資料を一カ所に集め、レベル分けし、装備するとともにパンフレットを作成し選びやすくすることができた。</li> <li>・電子書籍で多読用のコンテンツや英語や韓国語の音声付の絵本コンテンツを積極的に購入し、多読用のコンテンツについては、目につきやすいようにジャンルでレベル分け（7レベル）をし、使いやすくした。今後は、タイトル数を増やすとともに特集での書影の表示や電子書籍コンテンツの案内を作成するなど、利用促進を図る。</li> <li>・TRCマークがある外国語資料（英語）を積極的に購入するとともに、これまでシステム上で表記ができなかったため、積極的に購入してこなかった中国語に翻訳された日本の絵本や中国の文化がわかる絵本などを購入し、英語以外の言語の資料について収集ができた。目録作成は国立国会図書館のマークを活用しているが、検索のため翻字の入力ができた本もあるが、入力できていない本もある状況である。翻字の入力方法などを検討し、目録作成マニュアルについて、引き続き検討が必要である。</li> <li>・外国語の利用案内（英語・韓国語・中国語）を配布しているが、韓国語について文言の見直しを行った。それ以外の言語については、貸出冊数の変更など最低限の修正にとどまった。今後日本語の利用案内を修正する予定があることから、それに合わせた修正を行う。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl;">図書館協議会の外部評価</p>	<p><b>【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み3】多文化サービスの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館に多読コーナーを作るなど新しい試みに取り組んでおり、評価できる。「多読」の意味を知らない市民も多いと思うのでPRの時に説明する必要があるが、全小学校に配布した「多摩市立図書館ニュース」にわかりやすく紹介されているのがよい。今年初めて発行したということだが、図書館の様々な取り組みを紹介するために今後も発行することが望ましい。</li> <li>・「多摩市立図書館ニュース」は昨年度まで小学生対象に配布していたブックリスト「夏休みこれよんで」と夏休みのイベントを紹介するリーフレットに代わるものとして作成されたということだが、中学生に対してもブックリストや「多摩市立図書館ニュース」を配布し、読書活動の推進に努めるべきである。</li> <li>・「多読」の本を一カ所に集めることで、市民の目につきやすくなるが、他の図書館からなくなってしまうことになるので、その補完について検討することが望ましい。</li> <li>・外国人への利用促進として、多摩市国際交流センター広報紙に図書館の案内を掲載したり、中国語や韓国語の絵本を購入したりしたということだが、図書館として多文化サービスを考えていくには、多摩市にどのような言語を母語とする住民がいるのかなど実態を踏まえた上で進めていくことが必要である。また日本語を母語としない市民向けの日本語講座などの機会をつくることも検討することが望ましい。</li> <li>・多読コーナーの名称について、現在は英語学習のための資料を置いていることから、都立多摩図書館や国立国会図書館のように「英語多読」というように対象言語を明確にするなど、市民がわかりやすい表現にするべきである。</li> <li>・多文化サービスを当事者に浸透させていくには、今後も多摩市国際交流センターと連携を深め、広報紙への情報提供だけでなく、直接交流を持つ機会を作るなど積極的に進めることが望ましい。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語多読のための取組みを進めていることから、多読コーナーの名称について「英語多読コーナー」とし、継続して資料の収集をおこなう。資料の貸出状況を把握し、複本の購入や学校へのセット貸出等を検討する。</li> <li>・多読資料を小学生や中学生に活用してもらうため「多摩市立図書館ニュース」で引き続き紹介するとともに中学生向けのブックリストの作成を検討する。</li> <li>・多摩市にどのような言語を母語とする住民がいるのかなど実態を把握し、サービス内容や資料の収集を進める。</li> <li>・多文化サービスについて日本語を母語としない当事者に浸透させるため、多摩市国際交流センターとの連携を深め広報紙への情報提供だけでなく、直接交流を持つ機会を作り、当事者に届ける新たな手法などを検討する。</li> </ul>

## 基本目標 (2) 子どもへのサービスの充実

### 評価項目 【取り組み4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進

- 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画に基づき各施策を推進する。また、計画期間6年間を見渡した上で、令和2年度は次の推進事項について重点的に取り組む【継続】
- ホームページの「子どものページ」「ティーンズのページ」「子どもの読書に関心のある方のページ」の充実【継続】
- ブックリスト「よんでみよう！」の改訂をおこなう【新規】
- 児童館等でおはなし会を開催し図書館のPRを行う。【継続・新規】
- 学校図書館への支援と課題の検討【新規】
- 支援の必要な子どもたちへの取り組みの推進【継続】
- 団体貸出についてホームページでPRする【新規】
- 外部講師による研修の実施【継続】

実施結果  
(具体的な取り組み状況)

#### 【取り組み4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進

- アクションプランの振り返り、改訂【継続】
  - ・令和元年度アクションプランの振り返りとプランの改訂を実施し（令和2年度版の作成）、冊子にして配付した。また、これを図書館内、関係課、市立小中学校で活用することで、各施策の計画的な推進を行った。（4～9月取りまとめ、10月推進連絡会にて確認、10～12月指摘事項の修正、1月庁内印刷）
- 推進連絡会等の開催【継続】
  - ・推進連絡会（10月）、小・中学校連絡会（2月）、市民ボランティア連絡会（9、12月）、庁内連絡会（3月）を開催し、計画推進についての課題や取り組みについての情報共有を行った。
- 子ども向けやティーンズ向けの展示や図書館主催イベントのお知らせをそれぞれの対象別のページに掲載し、PRを図る【継続】
  - ・コロナ禍でほとんどのイベントを中止としたが、「第12回子ども読書まつり」は展示のみとし開催した。実施にあたっては図書館ホームページの対象別のページに掲載し、PRした。
- 「よんでみよう！」（1、2年生）の改訂をおこなう【新規】
  - ・「よんでみよう！」（1、2年生）の改訂を行った。作成にあたっては、学校への意見照会を行った。学校への送付は、令和3年5月。
- 児童館等出張おはなし会を開催し図書館のPRを行う。【継続】
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため出張おはなし会は実施できなかった。
- 複合施設のおまつりなどを活用し図書館以外の場所でおはなし会を開催し図書館のPRを行う【継続】
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各館のおまつりが中止となったため未実施。
- 学校図書館への支援と課題の検討のために令和元年度に実施した学校の実態調査の結果をまとめ、全学校間での情報提供と支援方法について検討をする。【新規】
  - ・実態調査の結果を全校へ送付した。また学校図書館間の物流の手法について、教育振興課、教育指導課と検討を行い、各学校から送付できる冊数を決定した。（他の運搬物に支障がない範囲である5冊程度）

<p>実施結果 (具体的な取り組み状況)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マルチメディアデジターの貸出に関するシステムを見直し、対象者が利用しやすい環境をつくる。 【新規】</li> <li>● マルチメディアデジターについてのチラシを各館に設置するとともに、園長会(3月)や子育てネットワーク会議(3月)でPRした。</li> <li>● マルチメディアデジターを職員が案内できるように職員向けマニュアルを作成し、研修(2月4日)を実施した。</li> <li>● マルチメディアデジター「わいわい文庫 ブルー版」を一般利用者が、貸出、検索、予約ができるようにシステム担当と調整し登録変更した。</li> <li>● マルチメディアデジターを「ふじゆうってなにコーナー」や図書館ホームページでPRする【新規】</li> <li>● 「わいわい文庫 ブルー版」を「ふじゆうってなにコーナー」に設置し、気軽に利用できるようにした。(1月)各館にチラシを置いてPRした(1月)。やまばと通信(242号)に掲載するとともにホームページでも画像つきでPRした。</li> <li>● 支援が必要な子ども達が利用できる資料を集めた棚を設置する。【新規】</li> <li>● ICタグ機器を導入した館では、設置による書架のレイアウト変更をきっかけに、LLブック書架を「いろいろな種類の本棚」として新設した図書館があった。支援が必要な子どもたちが利用できる資料として大活字資料・点字資料・布絵本なども広く展示した。(10月)</li> <li>● 各館の中ではLLブックの利用促進を図るため、書架コードを設定し館内のOPACでも配置場所がわかるように見取り図を修正した館があった。また資料の配架では面出しの多用など資料の見易さを工夫し、利用者が手に取りやすいように配慮した。(2月)</li> <li>● 団体貸出制度についてホームページでPRする【新規】</li> <li>● 一般利用者の貸出冊数の上限の検討と合わせ、団体貸出制度の上限冊数についても実態に合わせて見直した。見直し後、図書館ホームページに団体貸出についての案内ページを作成した。(3月)</li> <li>● 外部講師による研修の実施【継続】</li> <li>● 教育指導課主催の学校図書館司書研修に、教育指導課と協力し都立多摩桜の丘学園の司書教諭に講師を招き実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子ども読書まつり《ほんともフェスタ》講演会は実施できなかった。</li> </ul>
<p>図書館の自己評価</p>	<p>【図書館の自己評価対象】：【取り組み4】第三次子どもの読書活動推進計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第三次計画のアクションプランを引き続き作成することで、これまでの取り組みの「見える化」が出来ており、また、進捗状況に応じて内容の更新することで、計画的な推進が出来ていると考えている。</li> <li>● 学校との連携は、「第12回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》展示」、「よんでみよう！(1、2年生の改訂)」を行う過程で進んでおり、また令和元年度の学校の実態調査の結果を基に、懸案であった学校図書館間の図書物流の手法について、教育振興課、教育指導課との取り決めができた。</li> <li>● 支援が必要な子どもへの取り組みでは、マルチメディアデジターのシステム見直し、PRの充実を行い、情報発信にも取り組んだ。</li> </ul>

<p>図書館の自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体貸出は、制度の見直し、ホームページでのPRを進めた。今後は保育園、幼稚園への貸出増につながる具体的な取り組みを行う必要があると考えている。</li> <li>・外部講師による研修の実施は、新たな取り組みとして、学校図書館司書研修の実施に際して、教育指導課と協力して東京都立多摩桜の丘学園司書教諭を招いた。子ども読書まつり《ほんともフェスタ》ではコロナ禍のため、外部講師による講演会は実施できなかった。また定例のおはなし会はコロナ禍のため、緊急事態宣言期間中はおはなし会を中止したが、実施ができた時は、感染予防対策として人数制限や間隔をあけて距離をとり、歌を歌わないなど内容を見直し実施した。</li> </ul>
<p>図書館協議会の外部評価</p>	<p><b>【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み4】第三次子どもの読書活動推進計画の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よんでみよう！」で紹介されている本は良い本が選書されている。また、今までになかった知識の本や新しい本が選書され、ジャンル別になっており、わかりやすい。これから改訂する3年生以上の「よんでみよう！」も読み物だけでなく、さまざまなジャンルの本を選書するよう努めるべきである。</li> <li>・「よんでみよう！」は各学校で学校図書館司書により読書の時間での活用や、学校図書館の選書の参考にされているなど子どもの読書活動への効果的なツールになっている。引き続き、取り組んでほしい。また、今までになかった知識の本や新しい本が入りジャンル別になっており、わかりやすい。</li> <li>・「よんでみよう！」は学校を通じて子ども達に直接配布されているが、読書に関心がない子どもが多い中で、こうしたツールを用いて子どもたちをどのように読書に結びつけるかが課題である。</li> <li>・「よんでみよう！」の直近の改訂は9年前であり、毎年様々な本が出版され、子ども達の読書環境が変化している状況が内容に反映されていない。毎年度1学年を改訂するなど計画的に改訂を行う必要がある。また更新年月日を記載し、明確にすべきである。</li> <li>・《ほんともフェスタ》をグリナード永山のどんぐり広場で行い、図書館の活動や電子図書館をPRする機会を設けたことは、図書館の利用や関心のない市民に対して使ってみようという気持ちを持ってもらう良い機会になる。図書館の活動を図書館外で積極的に周知する取り組みを続けることが望ましい。</li> <li>・コロナ禍の限られた条件の中で《ほんともフェスタ》やおはなし会など実施できる方法を検討し行ったことは評価できる。</li> <li>・保育園や幼稚園の園長会などの子育てネットワーク会議で、図書館の事業等の周知をするとともに、更に個別に声掛けなどを行うことで園内での読書活動の推進につながると考えられる。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次多摩市子どもの読書活動推進計画を毎年度更新しているアクションプランに基づき、着実に推進していく。</li> <li>・「よんでみよう！」については引き続き計画的な改訂を進めるとともに、読書に関心がない子どもたちも活用でき、また時代の変化を考慮し比較的新しい本も取り入れる選書を行っていく。</li> <li>・図書館のサービスを学校、幼稚園、保育園等の子どもの読書活動に関わる関係機関に向けて、積極的に情報発信をしていく。</li> <li>・支援が必要な子どもたちへの取り組みの推進のため、マルチメディアデジターやLLブックの認知を高め、貸出を促進する。</li> </ul>

## 基本目標 (3) 市民や地域に役立つ図書館

### 評価項目 【取り組み7】 読書活動に関心を高めるための事業の実施

- 新たな本との出会いの機会として各館で企画展示を実施する【継続】
- 市民に読書活動に関心をもってもらうイベントを引き続き実施する【継続】
- 市民による企画展示や本の紹介を実施する【継続】

実施結果  
(具体的な  
取り組み  
状況)

#### 【取り組み7】 読書活動に関心を高めるための事業の実施

- 新たな本との出会いの機会として各館で企画展示を実施する【継続】
  - ・企画展示ではないが図書館臨時休館中に、新型コロナウイルス感染症の情報や自宅で楽しめる公共施設が発信しているサイトを集めたリンク集をホームページに掲載した。
  - ・時節や市民の関心が高いテーマの本を集めた企画展示を全館で実施し、36 テーマのブックリストを作成・配布し図書館ホームページに掲載することで、新たな本との出会いの機会を作った。
- 市民に読書活動に関心をもってもらうイベントを引き続き実施する【継続】
  - ・新たな本と出会う機会の提供を目的として、1月4日から6日まで行政資料室を除く全館で「本の福袋」を実施し、206セット貸し出された。

#### <自己評価後の追加情報>

貸出状況は、本館が77セット中71セット(92%)貸出、関戸図書館41セット中29セット(70%)、唐木田図書館22セット中11セット(50%)、その他の館は100%貸出された。関戸図書館は児童向けのみ冬休み前(12月)に、1月は一般、ティーンズ向けのみとしたことが、貸出し状況に影響していると考えられる。また、唐木田図書館は1月4日が休館日のため5日から開始し、感染対策として福袋のテーマを書いた引き換えカードを展示し、カウンターで福袋を渡す方式としたことから、福袋の質感、大きさなどイメージが伝わりにくかったことが影響したと考えられる。

対象別の作成割合は、一般向け55%、児童向け30%、ティーンズ向け10%、障がい者サービス5%  
対象別の貸出割合は、一般向け57%、児童向け32%、ティーンズ向け6%、障がい者サービス5%

- ・高齢者向けのおはなし会は、これまで福祉館との連携で実施し、昨年度はコロナ禍で実施できなかったということだが、高齢者向けの図書館の利用の仕方を案内できる機会であり、よい取り組みであるので、図書館内で実施するなど、引き続き実施方法を検討することが望ましい。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福祉館の昼食会での高齢者向けおはなし会の中止や子ども読書まつりが展示のみとなるなど縮小があった。イベントの在り方については引き続き検討する。
- 市民による企画展示や本の紹介を実施する(継続)
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りつつ読書活動に関心を高めるイベントとして、ビブリオバトルを紹介する展示を子ども読書まつり《ほんともフェスタ》で実施し、これまでのビブリオバトルのチャンプ本などを改めて紹介し、読書に関心を持ってもらうきっかけ作りをおこなった。
  - ・おはなし会団体3団体のおすすめ本を紹介する企画展示を本館児童室で実施した。(9月・11月・2月)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">図書館の自己評価</p>	<p><b>【図書館の自己評価対象】：【取り組み7】読書活動に関心を高めるための事業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにイベントが計画どおり実施できなかったが、市民が家で過ごす時間が増えたことで読書の需要は増しているため、企画展示やブックリスト作成・ホームページ掲載など本の紹介には力を入れた。</li> <li>・グリナード永山や本館で実施した、子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の展示では、学校図書館の紹介展示だけでなく、読書に関心をもってもらうため、本館のこどもとしょしつにある「へなそうのへや」や多読資料を紹介する展示、電子図書館、デジタルアーカイブ、中央図書館開館に向けてのPR等を企画。普段図書館を利用することが少ない世代へ図書館の取り組みを広く周知し、読書活動へ関心をもってもらうことができた。</li> <li>・高齢者向けおはなし会に代わる企画を検討したが、年度内に実施することはできなかったため、引き続き感染予防対策を踏まえた上での読書に関心を持ってもらえるイベントの実施方法や内容について検討する。</li> <li>・当初はビブリオバトルの実施を計画していたが、コロナ禍で実施が難しくなったため、ビブリオバトルを市民に知ってもらう方法を検討し、子ども読書まつり《ほんともフェスタ》で紹介展示をすることし、大妻女子大学の読書サークル OLIVE の協力を得て、チャンプ本の書影を入れた紹介冊子を作成し、配布。市民にビブリオバトルを周知できた。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">図書館協議会の外部評価</p>	<p><b>【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み7】読書活動に関心を高めるための事業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展示に合わせて36テーマについてブックリストを作成したことは評価できるが、後から手に入る機会がない。過去のブックリストを図書館ホームページで閲覧できるようにするなどの工夫を求めたい。</li> <li>・ビブリオバトルは、コロナ禍で通常の形では実施できなかったが、工夫して実施できる方法を考えて行えたことはよかった。また大妻女子大学の学生と協力したことは地域連携という点からも評価できる。</li> <li>・本の福袋は235セット用意し、貸出実績が206セットということであり好評だったと考えられる。準備した総数、内容（対象、テーマなど）も把握し、実施後に評価し、次の企画につなげる意識を持って取り組むとなおよい。</li> <li>・本の福袋の実績は、大人向けや子ども向けの割合、また残部がどれくらいあったのかなどで評価が変わるため、具体的な数字や用意した数の設定目標などを改めて出してもらった上で評価する。</li> </ul>

- ・新たな本との出会いを目的とした本の福袋については、今後は全館一斉にただ実施するのではなく、各館において残部などの実績を分析しながら創意工夫して行うことで、さらに市民に喜んでもらえるイベントにしていく。なおICゲート設置図書館で実施する際は、ゲートとの位置関係を配慮し、設置場所や実施方法を工夫する。
- ・企画展示については、各課連携や季節に沿ったテーマのほか、地域のイベントと連携した展示や市民のお勧めする本を紹介する展示など幅広く実施し、多くの市民に手に取ってもらえる展示としていく。
- ・企画展示に合わせたブックリストを引続き作成する。
- ・図書館ホームページにブックリスト、パスファインダーを掲載するページを作成し、過去の企画展示のブックリストを閲覧、ダウンロードできるようにする。
- ・イベントの開催にあたっては市のTwitterやLINEを活用し、効果的なタイミングで発信することで普段、図書館に関心がない層や若年層に働きかけていく。

## 基本目標（４） しらべるを支え、つながる図書館

### 評価項目 【取り組み９】 地域課題解決の支援

- 地域課題解決のため、関連する資料を積極的に収集し、各課と連携した企画展示を実施する【継続】
- 図書館ホームページ上での公開できるレファレンス事例の登録を進める【継続】

#### 【取り組み９】 地域課題解決の支援

- 地域課題解決のため、関連する資料を積極的に収集し、各課と連携した企画展示を実施する【継続】
- ・平成 29 年度から開始し、令和 2 年度は 16 課 28 テーマ、2 機関 3 テーマの展示を実施した。2 機関は、パルテノン多摩と多摩中央警察署。1 テーマが新型コロナウイルス感染症のため講座等の中止に伴い展示も中止となった。

	平成 29	平成 30	令和元	令和 2
連携課数	10	14 (2)	20 (1)	16 (2)
テーマ数	15	22 (2)	27 (2)	28 (3)

※（ ）はパルテノン多摩など関連機関やプロジェクトチームとの連携企画展示の数

- ・環境政策課との連携企画展示「気候変動・地球温暖化対策」や子育て支援課との展示「児童虐待」等、計 9 テーマの展示で図書館が作成したブックリストやパスファインダーを資料の展示とともに配布した。
- ・例年講座などのイベントの時期に合わせて企画展示を実施するが、令和 2 年度はコロナ禍で講座やイベントが中止になったものがあつたが、本の展示と合わせて関連のチラシやリーフレットも配布した。概ねチラシやリーフレットは市民によく手に取られており、テーマによっては連携課へ追加を依頼する場合や、展示期間中に図書館内で配布したチラシやリーフレットの内容について連携課へ問い合わせがあるなど関心を持たれている。
- ・各課連携展示の中でも、高齢支援課との展示「認知症」「介護予防」や健幸まちづくり推進室との展示「ワークライフバランス」は、特に貸出が多く、平均の貸出回数が 1～3 回転とよく利用され市民の関心が高かった。
- ・子育て支援課との連携展示「児童虐待」は図書館だけでなく、市内の児童館（10 カ所）、多摩保育園、子ども家庭支援センター、たまっこ子育てひろばなどでも本の展示、ブックリストやチラシを設置することで、図書館利用者だけでなく子どもや子どもに関わる大人にも手に取ってもらえた。
- ・実施後に行う連携課へのアンケートでは、担当者からは、「講座等の実施だけでは興味がある人にか情報が届けられないが、図書館内で展示をすることによりテーマに関心が無い人にも PR することができるいい機会になった。」「講座会場などに関連図書やブックリストがあることでさらに充実した。」「来館者からも図書館でチラシを見たなどの反応があつた。」等の意見が寄せられ地域課題への関心を高めることができた。

実施結果  
(具体的な  
取り組み  
状況)

- 図書館ホームページ上での公開できるレファレンス事例の登録を進める【企画運営】
- ・カウンターで受け付けたレファレンスは、事例として残したほうが良いと判断したものは、指定の様式に記録しシステム上に入力。入力当初は非公開とし、レファレンス担当が内容を精査し公開している。公開するレファレンス事例は、問い合わせが多い内容とし、公開後もレファレンスに使用した参考図書等を定期的に見直し、更新をおこなっている。
- ・令和2年度は、図書館ホームページ上で公開する新規の登録を進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症防止のための新規事業の対応もあったため、登録されているレファレンスデータの精査や調べ直しなどの業務に取り組むことができなかった。

レファレンス登録件数 非公開を含めた件数 1,987件 公開件数 183件

	平成 28	平成 29	平成 30	令和元	令和 2
新規登録数	56件	77件	36件	32件	17件

図書館の自己評価

【図書館の自己評価対象】：【取り組み9】地域課題解決の支援

- ・各課との連携企画展示は平成29年度から比べ、連携課数は10から16と1.5倍になり、テーマ数は15から29と約2倍になった。連携企画展示を行った多くの課が、次年度にも連携企画展示を申し込まれることが多く、図書館の情報提供の役割について認識されている表れと言える。
- ・企画展示を行うにあたっては、連携課から提出された企画書を基に事前打ち合わせを行い、テーマや希望する本の分野などを聞き取り、実施している。また展示終了後に実施報告書とアンケートの送付を連携課に行い、展示の結果や効果について情報を共有し、関連する分野の選書などに活かしている。
- ・貸出数は、テーマによってもバラつきがあり、展示した本がほぼ全て貸出をされるような「介護予防」や「食育」などもあれば、「消防団」などのように該当の本が少ないもの、固めのテーマの場合は、なかなか貸出しに結びつかなかったものもあるが、本だけでなく関連するチラシやリーフレット、実物（消防団使用のラップなど）などを合わせて展示することにより市民の目に留まり、地域課題について関心を高めることができた。
- ・展示の本がより魅力的になるよう、毎年行っているテーマについては日常の選書の段階から注意し、新しい本を積極的に購入するよう意識するとともに、展示を行うにあたって連携先の課にも推薦図書を出してもらおうよう、引き続き働きかけるなど連携を深めていきたい。
- ・図書館ホームページ上でレファレンス事例を公開するにあたっては、公開候補の選定、回答内容の精査、追加資料の調べ直しなどを行い公開しているが、新しいレファレンス事例を増やせていない状況がある。原因としては、次の2点があげられる。
  - ①各館でレファレンス受付から事例としての記録入力、公開候補の選定、追加資料の調べ直しなどの一連の流れが職員間で共有できていない。
  - ②公開したレファレンス事例は、定期的に回答資料を見直し、新しい年度の資料と差し替えるなどのメンテナンスを行うこととしているが、日常業務に追われ、滞っている
- ・公開するレファレンス事例を増やすために、次の事を検討し進めていきたい。
  - ① 各図書館で受付けた後に記録を入力しやすくするため様式や入力方法の見直し。
  - ② 公開候補の選定基準の明確化や、公開までのフローを見直し、効率化を図る。
  - ③ 公開後のメンテナンス対象を厳選し更新することにより、メンテナンス業務を省力化する。

図書館協議会の外部評価	<p>【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み9】地域課題解決の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課連携企画展示は、気候変動などの環境問題、児童虐待、福祉など、市民にも身近な課題について関係課と連携し市民に情報提供していることは評価できる。また、実施テーマ数が毎年増えていることは、市の各部署が図書館を行政の窓口の一つとしての有用性を評価している表れでもあり、高く評価できる。</li> <li>・連携企画展示をきっかけに、市民の身近な施設である図書館と市役所の各課で横のつながりをより活性化し、図書館もより積極的に行政支援サービスとして取り組むことが望ましい。</li> <li>・レファレンス事例の登録業務が滞り公開件数が少ないことに対して、図書館自身が課題を見つけ、改善策を考え、解決しようとしていることは評価できる。またレファレンス事例の登録は、図書館全体で情報を共有することができ、職員のスキル向上につながるものでもある。受け付けるレファレンスを所蔵調査や調査質問などで内容ごとに集計することで、公開すべき対象や件数を把握できると思うので、積極的に取り組んでほしい。</li> <li>・市民にレファレンスサービスを利用してもらうには、レファレンス事例の検索方法を説明するだけでなく、レファレンス（調べ方）についての説明をホームページでわかりやすく記載するなど工夫することが望ましい。</li> <li>・利用者が窓口で本の所蔵を問い合わせるときに、職員が問い合わせを受け付けられない印象を与えるような対応が見受けられる。基本的な窓口サービスとして、職員が利用者の質問を真摯に聞き取り、適切に対応すべきである。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の各部署と連携し、引き続き連携企画展示等を通じて市民に身近な課題について情報提供していく。</li> <li>・窓口で受け付けたレファレンスの記録数を増やすとともに、ホームページ上で公開するレファレンス記録を増やすために記録様式や入力方法の見直しを検討する。</li> <li>・レファレンス記録を公開するまでのフローを見直すとともに選定基準の明確化や効率化を図りつつ、公開後のメンテナンス業務を省力化する。</li> <li>・職員のレファレンススキルを向上させるため、引き続き研修を実施していく。</li> </ul>

基本目標（5） 弾力的な管理・運営

評価項目 【取り組み17】 蔵書の適正管理

- 中央図書館開館に向け、蔵書計画を策定するとともに、選書体制を整え、購入を計画的に進める。【継続】
- 蔵書の固定化について検討を進める【継続】

実施結果  
（具体的な取り組み状況）

【取り組み17】 蔵書の適正管理

- 中央図書館開館に向け、蔵書計画を策定するとともに、選書体制を整え、購入を計画的に進める。【継続】
- ・中央図書館用の資料の購入を計画的に進め、令和2年度は一般書のうち未所蔵資料の参考図書・専門書・全集を中心に購入した。また開館までの期間が長いことから時事的要素が強い、地理、医学、工学・技術、産業は購入を控えた。
- ・中央図書館整備担当で各分類の冊数・金額の目標値を提示し、本館企画運営担当及びサービス係が各々の担当分類について選書を行った。

【中央図書館用資料購入実績】

購入冊数 3,270 冊  
購入金額（本体価格） 17,825,109 円

分野	0 門 総記	1 門 哲学	2 門 歴史	3 門 社会科学	4 門 自然科学	5 門 工学	6 門 産業	7 門 芸術	8 門 語学	9 門 文学
冊数	149	450	408	862	372	69	42	379	150	389
割合	5%	14%	12%	26%	11%	2%	1%	12%	5%	12%

- 蔵書の固定化について検討を進める【継続】
- ・中央図書館開館に合わせて検討されている蔵書の固定化について、課題等を検証するため蔵書の一部固定化の模擬実験を行った。
- ・蔵書固定化模擬実験 実施概要  
対象分野： 一般書の小説（分類F 1（日本の小説）・F 2（外国の小説））、児童書の高学年向けよみもの（分類9 1（日本のよみもの）・9 2（外国のよみもの））  
実施館： 行政資料室を除く7館  
準備期間： 令和2年11月16日～12月28日  
上下本等のシリーズものの集約、複本資料の所蔵冊数調整等の書架整理を行った。  
計測期間： 令和3年1月1日～2月28日  
計測内容： 回送件数及び返却・予約により所蔵館が変更になった件数の計測を行った。

【実施結果】

- ・模擬実験中の計測データ比較対象として以下の期間のデータを抽出し、件数の比較を行った。

令和2年 1月1日～ 2月29日（前年同月）

令和2年10月1日～11月30日（前月）

- ・それぞれの状態に応じた件数は以下の通りであった。

**通常回送（蔵書が固定化されている資料の回送）**：前年同月比・前月比とも約110～120%となり、増加となった。本館の増減数は、前年同月比が3,834件増、前月比が2,619件増。

**強制回送（複本の整理など職員が設定する回送）**：豊ヶ丘の前年同月比を除き、減少した。前年同月比・前月比は各館で55%～106%と差が開いたが、約60～80%となった館が多かった。本館の増減数は、前年同月比が666件減、前月比が1,205件減。

**返却による所蔵館変更**：いずれも割合が減少した。約70%～80%の館が多数だが、関戸は前年同月比の8%、前月比の31%、永山は前年同月比が18%、前月比が46%と拠点館で大きく減少した。本館の増減数は、前年同月比3,039件減、前月比が2,155件減

**予約による所蔵館変更**：いずれも減少した。前年同月比・前月比は約70%～90%であり、突出した特徴は見られなかった。本館の増減数は、前年同月比3,012件減、前月比が2,282件減。

⇒以上のことから、蔵書固定化により通常回送の作業が増える一方、複本の所蔵数をあらかじめ振り分けをし、上下巻やシリーズを揃えるなどを行ったため、日常的に職員が行う強制回送の作業が減った。返却・予約による所蔵館の変更による資料の循環が減少することが判明した。

【課題】

分析による結果のほか、模擬実験を行ったところ以下のような課題が判明した。

- ・巻数の多い全集を1館に集約すると蔵書に偏りが出てしまう。
- ・来館してその場で本を選ぶ利用者（特に子ども）は利用できる資料に限りが出る。
- ・発注時や新刊受入時に所蔵館を設定する必要があり、作業が増える。
- ・複本を整理する際は、全館にある本を呼び寄せ状態を比較検討する必要があることから、整理後、所蔵館を修正する必要があるなど、作業が増える。
- ・引き続き分析を進め、課題への対策や蔵書固定化によるメリット・デメリットのバランスを考慮しながら蔵書固定化の範囲（実施館・実施分野）を決定し、準備を進める。

図書館の自己評価

【図書館の自己評価対象】：【取り組み17】蔵書の適正管理

- ・中央図書館用の図書の選書は、令和2年度から購入を開始した。令和2年度は、対象分野については予定通り購入できたが、参考図書を中心にしたことから単価が高額となり、当初の目標冊数7,500冊を下回った。令和3年度の選書対象を一般書中心とすることで目標冊数に近づける予定である。
- ・蔵書の固定化の検討について、検討の材料とするため実証実験を実施した。限定的な実施ではあったが、課題も確認できたため、引き続き検討を進め、令和3年度には決定をしたい。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">図書館協議会の外部評価</p>	<p><b>【図書館の自己評価対象：【取り組み17】蔵書の適正管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩市は蔵書を各館に固定化していないことから、小さな館でもさまざまな本に出会える機会を提供できる反面、利用状況により特定の分野の本が1つの館に偏ったり、上下本が別々の館の棚にあたりした場合や複本は抜き出して他館へ回送するなど管理が必要になるなど手間がかかることから、ある程度蔵書を固定するほうがよい。</li> <li>・蔵書を固定化し所蔵館を決めることで、各館にさまざまなジャンルの本を均等に置くことができるようになるのではないかと。子どもたちが、図書館で調べる時にそのジャンルの本が無いということがないようにするには固定化したほうがよい。</li> <li>・蔵書の偏りについては、蔵書を固定化した場合や現在の所蔵館を固定しないフローティングシステムのどちらでも当てはまる問題であると考えられる。蔵書管理のシステムを変更するのは大きな決断だと思うが、蔵書の管理方法や各館の蔵書コレクションの持ち方について考えるきっかけにもなるので研究を進めてもらいたい。</li> <li>・蔵書の固定化について図書館内部検討や模擬実験を行い、検討を始めたことは評価できる。今後、模擬実験の結果を踏まえ、検討した結果を図書館協議会などに意見を聞くなどし、引き続き検討を進めていくことが望ましい。</li> <li>・中央図書館の購入計画については、建設計画の変更や市の財政状況等に影響を受けることもあるので、図書館協議会が一概に評価することは難しいが、収集計画を作成し、選書チームを作って選書を進めていることは評価できる。また選書図書の高額だったことなどが影響し、目標冊数を達成できなかったことは新館の開館に向けては、望ましくないため目標冊数を達成できるように選書を見直すなどして引き続き取り組んでいくべきである。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書の固定化について、模擬実験結果や図書館協議会からのご意見を参考に内部検討を進め、方向性を決定する。</li> <li>・中央図書館開館時の目標冊数に届くよう、中央図書館選書方法を見直すなどにより着実に収集を行う。</li> </ul>